

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

晋江(ジンジャン)のいま！！

JSC 貿易部ニュース 中国編

秋色いよいよ濃く、夜長の頃となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、突然ですが、福建省の「晋江」(ジンジャン)という地名をご存知でしょうか？

はい、その通りでございます。

日本、そして世界の墓石業界、建築業界に多大なる貢献をして頂いた、あの「G603」の産地です。

十数年前に訪問した時には、まだ町のあちらこちらに大小無数の石材工場が存在し、石粉が町中に舞っておりました。道路の両脇にも石材の廃材が無造作に捨てられており、綺麗な町とは言い難い雰囲気でした。

しかし、今年の夏に久しぶりに訪れたところ、町がとても綺麗になっていてビックリしました。石粉は舞っておらず、空も青く澄んでいました。下の写真は新華社通信撮影ですが、市の中心部は夜になるとこんな感じで、伝統的な街並みと高層ビル群が融和して立ち並んでおり、かつての石工場の町のイメージは跡形もありません。



それもそのはず、晋江の石材工場の社長の話では、以前は 600 社ほどあった石材工場が、今は十分の一の 60 社程度になっているそうです。ちなみに、そのうち日本向けは僅か 5 社だけだとか。

いま、晋江市は官民一体の成長モデルとして、中国国内でも大きく注目を集めています。晋江市の域内総生産（GDP）は 2017 年、2000 億元（約 3 兆 3600 億円）で、これは、私が初めて晋江市に行った 2002 年の 7.2 倍、そして 2012 年比でも 1.6 倍に相当する規模です。

ちなみに、晋江市の常住人口は昨年 2017 年の統計で、210 万人。日本の政令指定都市と比較すると、九州の大工業地帯の北九州市と同程度です。

年間売り上げが 1 億元以上（約 16.8 億円）の企業が 800 社以上あり、上場企業も 46 社あり、アパレルや食品、建材、飲料、紙製品、機械設備、化学繊維など、実に幅広く産業が育っているようです。

一昔前のイメージで言うと、晋江市は G603 を使った手加工工場が多く、町のメインの産業は手加工品の敷石やピンコロ・縁石を作る石材業、というイメージでした。それが、まさかこれだけの産業が育って、町自体も大きな発展を遂げているとは思ってもいませんでした。まだまだ、貧しい地域のような錯覚に陥りそうですが、全くそんな事はありません。

あの丁場は今！？

あの人は今！？みたいな、テレビ番組のタイトルみたくなりましたが、晋江市で取引している工場の目の前が、懐かしい晋江 603 の丁場でしたので、現状どのようになっているのかが気になり、様子を見てきました。



資源としては、石はまだまだ掘れば掘るだけ出てくるのですが、当然完全採掘禁止となっておりますので採ることは出来ませんし、人の気配もまったく無く静かな感じです。

掘り口も数十メートルの深さで水が溜まっており、この風景を見ていると、懐かしくも寂しいというか感慨深いものがあります。長期に渡り、日本だけでなく、世界中の石材業界に貢献した G603 丁場には、深く感謝申し上げます。m(_ _)m

晋江 603 から湖北 603 へ？

上述のように、この数年で晋江だけでなく各地の 603 丁場が採掘を停止し、原石在庫も無くなり、G603 で生計を立てていた多くの工場が転廃業に追い込まれました。

晋江の石材工場の経営者の中にも、他の業界に転業された方は多くいらっしゃいます。しかし、一部の経営者は新天地を求め湖北省へと向かいました。

今日は、そんな湖北省産の G603 についてご紹介いたします。

湖北省の麻城には、湖北 603 という晋江 603 ソックリの石の丁場があり、その丁場の近くで多くの晋江出身の方々が、大きな石材の工場を運営しています。

私自身、四年ほど前に湖北省麻城へ行き、湖北 603 の丁場や工場も視察致しましたが、当時は肝心の石質に関しても、まだまだ上層で錆っぽい石も多く含まれていたり、太鼓判を押してお勧めできるほどの状態ではありませんでした。工場も、国内向けの縁石や敷石を大量に生産するところばかりで、日本向けの製品水準を満たすところはありませんでした。しかし現在、福建省晋江の外柵工場では、湖北から運ばれてきた湖北 603 の原石を使用し、日本向けの延石・巻石・外柵に、湖北 603 を生産しているところも増えてきています。工場曰くは、「現在は深く掘り下がっており、錆の出る掘り口、錆びの出ない掘り口の選別もできており、当工場では当然錆びの出ない掘り口の原石を購入している」とかで自信有り気です



(左が湖北 603、右が晋江 603 です。)

色合い的には、湖北 603 は、晋江 603 よりやや青みがありますが、目合いは非常に良く似ており、代替品として十分使っていきそうな雰囲気です。しかし、まだまだ日本向けとしての使用実績は少なく、湖北省麻城に太いパイプのある、晋江の石材工場が使っている程度です。

錆や変色などの経年変化の問題に関しては、もう少し経過観察が必要かもしれませんが、今後、G603 の墓石・外柵を使用してきた地域では、主流になる可能性も十分にありますので情報としてご紹介をさせていただきました。この湖北 603 については、引き続き状況観察を続け、皆様にご報告させていただきたいと思います。

それでは、今月も最後まで読んでいただき、ありがとうございました。
秋季肌に染む時節、風邪など召されませんよう、ご自愛くださいませ。

2018/10/01